「日々の理科」（第 4448 号） 2026,10,14

「秋の北極圏旅行記（25）」

お茶の水女子大学サイエンス＆エデュケーション研究所

田中　千尋　Chihiro Tanaka



コテージのシャワールーム・洗面所・トイレです。以前よりも使いやすくなっていましたが、洗面台の位置が高すぎて、ちょっと不便でした。



このコテージでは、玄関で外靴は脱ぎます。ちょっと外歩き用にサンダルを持参すると便利です。



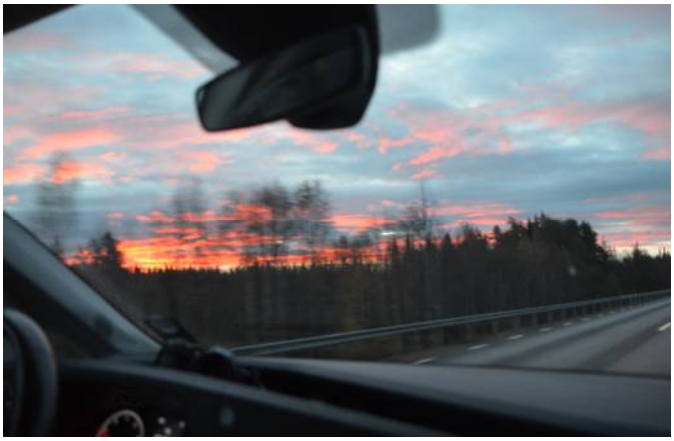
部屋の中ではスリッパが一番快適です。コテージ備え付けはないので、日本から持参しました。



何もかもすばらしいコテージなのですが、交通が不便なのが欠点です。レンタカーを使わない場合、丸ノ内線→東京駅→浜松町駅→羽田空港第三ターミナル⇒ヘルシンキ（ヴァンター）空港⇒ストックホルム（アーランダ）空港⇒イェリバーレ空港→（タクシー）→イェリバーレ市街地→（バス）→ポルユス・・・となります。かなり厳しいですね・・・。



いよいよ最終日。この日はひたすら移動です。ロバニエミ空港まで 350km、飛行機は 14 時出発です。絶対に乗り遅れるわけにはいきません。かなり慎重に考え、午前 6 時出発としました。



途中、国道から見た日の出です。今回の北極圏滞在中、実は天気はあまり良くありませんでした。それでも８泊のうち５夜はオーロラが見えてよかったです。



スウェーデン側最後の街「エーベル・トルネオ（上トルネオ町)」で休憩しました。スーパーはまだ開店していなかったので、ガソリンスタンド併設のコンビニで、朝食購入＋トイレ休憩をしました。長細いフランスパンのようなものに、ハムや野菜をはさんだ大きなサンドイッチは、１個で十分満腹になります。



フィンランド側はガソリンも高いので、ここで満タンにしました。それでも非常に高いです。95 オクタン（レギュラー・ガソリン）でも日本円に換算すると、１L＝約 320 円！高崎の出光スタンドの倍以上！とにかく物価の高さにはほとほと参りましたね・・・！



初めて「フィンランド」という道路標識に出会いました。この先の川が国境です。以前は簡単な国境検問所がありましたが、今はそれも廃止されました。国境を越えた・・・という感覚は全くないのですね。



この橋が国境です。スウェーデン側のほうが物価がいくらか低いので、フィンランドからスウェーデンに買い物に来る人が多く、車、自転車、スキー、トナカイ、ヘラジカ、それに徒歩でもこの橋を渡ります。



「スオミ」というのは、フィンランド語でフィンランドのことです。スウェーデン語でスウェーデンのことは「スヴァーリエ」といいます。ノルウェーは「ノリエ」です。ジャパンは「ニッポン」です。



旅行中よく見かけたカササギです。スズメ目カラス科の野鳥で、北極圏でも普通に見られます。黒い頭部と背中、白い腹部と翼、長い尾羽が特徴で、飛翔時には翼の鮮やかな白色が目立ちます。黒い羽には青緑色の金属光沢があります。基本的には留鳥で、厳しい北欧の冬も越します。雑食性で、昆虫や木の実、小動物などを食べ、樹上に大きな球形の巣を作ります。